

No.3 <牧会ミ二通信> 2020年5月3日

詩編 84 篇 「1 万軍の主。あなたのお住まいはなんと、慕わしいことでしょう。

2 私のだましいは、主の大庭を恋い慕って絶え入るばかりです。私の心も、身も、生ける神に喜びの歌を歌います。3 雀さえも、住みかを見つけました。つばめも、ひなを入れる巣、あなたの祭壇を見つけました。万軍の主。私の王、私の神よ。4 なんと幸いなことでしょう。あなたの家に住む人たちは。彼らは、いつも、あなたをほめたたえています。セラ

5 なんと幸いなことでしょう。その力が、あなたにありその心の中にシオンへの大路のある人は。6 彼らは涙の谷を過ぎるときもそこを泉のわく所とします。初めの雨もまたそこを祝福でおおいます。7 彼らは力から力へと進み、シオンにおいて、神の御前に現れます。

8 万軍の神、主よ。私の祈りを聞いてください。ヤコブの神よ。耳を傾けてください。セラ

9 神よ。われらの盾をご覧ください。あなたに油そそがれた者の顔に目を注いでください。

10 まことに、あなたの大庭にいる一日は千日にまさります。私は悪の天幕に住むよりはむしろ神の宮の門口に立ちたいのです。11 まことに、神なる主は太陽です。盾です。主は恵みと栄光を受け、正しく歩く者たちに、良いものを拒まれません。

12 万軍の主よ。なんと幸いなことでしょう。あなたに信頼するその人は」

周東のぞみキリスト教会の群れは、公同の礼拝が出来なくなって三週間が経ちました。公同の礼拝を失ってみて、何を失ったかに気づき始めておられると思われます。「まことに、あなたの大庭にいる一日は、千日にまます。私は悪の天幕に住むよりは、むしろ神の宮の門口に立ちたい」・「あなたのお住まいは、なんと、慕わしいことでしょう。私のだましいは、主の大庭を恋い慕って、絶え入るばかりです」。この人がエルサレム神殿に向かう途上であったのか、あるいは、神殿を前にした時の歌なのかはわかりません。いずれにしても、何としても礼拝に与りたいという強い願いが伺えます。もしかしたら、エルサレムから遠く離れた「バビロンの地」で、エルサレム神殿の礼拝に憧れたのかも知れません。

礼拝に集えない状況にある私達も同じ思いがあります。

神の民は礼拝に与るため、シオンにいたる大路を急ぎ駆け登りました。「かしこに大路あり。その道はきよき道となえられん。あがなわれた者のみ、そこを歩まん。主にあがなわれし者、歌うたいつづりてシオンにきたり、その首にとこしえの喜びをいただき、楽しみと喜びとを得ん。しかし、悲しみと嘆きとは逃げさるべし」(イザヤ35：8-10)。

全てを傾けて主を礼拝したい、「主の大庭にいたい」・「祭壇のかたわらに身を置きたい」・「あ

あなたの家に住みたい」・「神の家の門守りとなりたい」・「主の大庭を慕い、絶え入るばかりです」・
「あなたの大庭にいる一日は、よそにいる千日にもまさります」、と願いつつ、礼拝が一日も早く
回復することを願っています。 むなしく時を過ごさないように、日々御言に励まされ、祈りつつ
過ごしたいものです。

周東のぞみキリスト教会・牧師：結城 晋次